

近森病院 理学療法科

科長 田中健太郎 リハビリテーション部 部長 前田 秀博

はじめに

2025 年は、理学療法士 53 名の体制で運営を開始。4 月に 3 名の新入職員を迎えた。経過中に 3 名の中途退職、6 名の育休復帰と 6 名の産育休入り等があり、年末の現場スタッフ数は 55 名（前年同月 53 名）となった。法人理学療法科による、グループ病院間での教育的人事異動に加え、主任職の異動/退職/昇格人事などもあり、新体制への移行がありつつ人員が変動する 1 年であった。

急性期である近森病院では病床稼働率を維持しながら、在院日数は短縮傾向にある。日々めまぐるしく患者さんが入れ替わる病棟の中で、我々は病棟担当制の強みを活かし、日々多職種間での情報共有を行いながら、リハビリテーションサービスの質の維持に努めた。また、スタッフ数やオーダー数に応じた患者スクリーニングも併用しながら、安全で効果的な早期介入を実践してきた。

外来診療では、準備を進めていた心臓リハビリ外来日を半日増やし、心不全患者さんや心筋梗塞患者さん、心臓外科術後患者さんなどの退院後早期の生活ケアにも対応できる体制を整えた。

高知の地域医療を守る最後の砦として、自己改革を実施し続けた 1 年でもあった。

業務実績

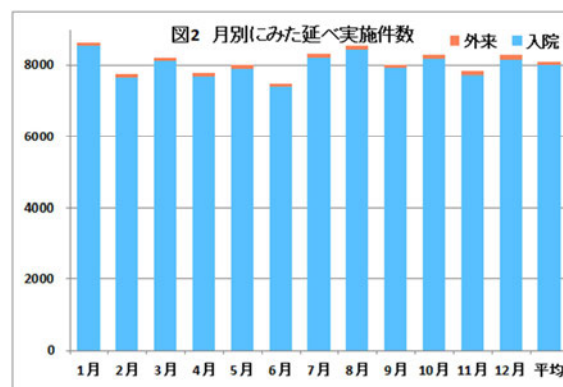
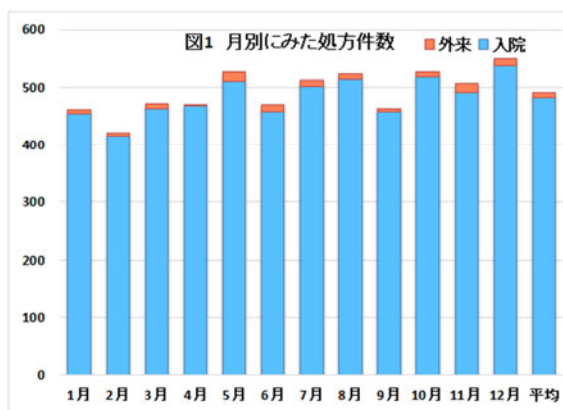
月別にみた処方件数を図 1 に示す。入院 5933 件（前年 5823 件）、月平均入院 482 件（前年 485 件）。外来 111 件（前年 110 件）、月平均 9.3 件（前年 9.2 件）であった。入院患者さんへの処方件数は微増したが、外来患者さんへの処方件数は同様であった。

2025 年 11 月より、心臓リハビリテーション外来日を新たに半日増やした。関連各科とも共創しながら、心疾患患者さんへの退院後支援にも努めていきたいと考えている。

月別にみた入院・外来の延べ実施件数を図 2 に示す。入院は月平均 7976 件（前年 7373 件）、外来は月平均 106 件（前年 91 件）であり入院・外来患者さんともに実施件数は増加した。

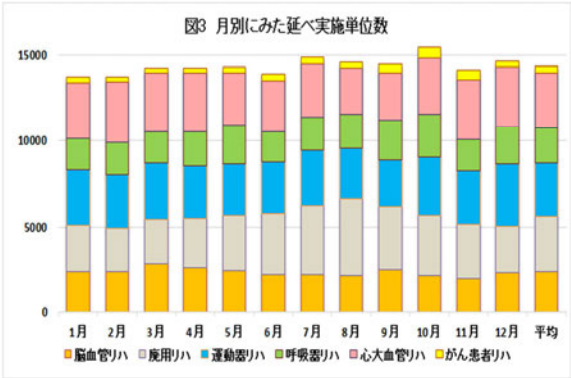
新型コロナウイルス感染症などは依然として散見されている。感染対策を徹底しながら、隔離期間であっても必要なリハビリテーションを提供するよう、日々細やかなスケジュール調整に努めた。

また、従来通り早期の離床が必要な患者さんに加え、近年は重症であっても、医療の進歩とともに各種デバイスを装着し、理学療法を実施する患者さんが増加している。実地件数の増加は、少ない単位時間で対応する患者さんの増加とも考えられるが、発症早期から、患者さんの病態に応じた少量頻回の関わりは、急性期リハビリテーションの標準的ケアプロセスになっていくものとも考えている。



月別にみた延べ実施単位数を図3に示す。月平均14376単位（前年15005単位）、心大血管リハ以外の実施単位数は減少した。

より早期に、より効果的に患者さんへ関わることを実践しているが、状態が不安定で短時間介入となる患者さん、状態が安定し本格的な理学療法介入を実施する時期になると転院となる患者さん、病態や検査/処置などで診療予定に変更が必要な場合など、急性期特有の要因で日々の実施単位数は変動している。急性期医療のスピード感到柔軟に対応しつつ、今後も必要な理学療法を提供することを心がけていきたい。



おわりに

2025年は役職者の異動や退職、そして次代を担う新たな昇格人事といった、組織の大きな転換期を迎えた1年でもあった。そんな日常においても臨床診療は休むことなく続いている。スタッフ一同が日頃の臨床実践で培った適応力を発揮し、業務へ献身的に取り組んでくれたことに深く感謝している。

2024年度の診療報酬改定で高く評価された「早期リハビリテーション」や「多職種連携」の推進は、もはや一時的な取り組みではなく、急性期医療の揺るぎない指針であり、リハビリテーションにおける主軸となるものと考えている。「いつ介入すべきか?」「いま離床すべきか?」日々の試行錯誤を経て得られた知見を標準的な業務プロセスへと発展させていくことが、患者さんへの最善の貢献につながると確信している。

学術発表・講演会等

演題名	演者	学会名	開催日（県）
当院における乳腺外科開設準備と開設後6ヶ月の振り返り	山村 猛瑠	第13回日本がんのリハビリテーション研究会	3月22日（愛媛）
Impella5.5補助下の安全な離床実施にむけた取り組み	橋田 芳恵	第89回日本循環器学会学術集会	3月30日（神奈川）
退院20日後に再入院となってしまう超高齢心不全症例への退院支援の振り返り	藤山 祐司	第31回日本心臓リハビリテーション学術集会	7月19日（愛知）
地域にて心臓リハビリテーションが継続できるよう急性期病院より介護保険サービスを推進する取り組みが重要	藤山 祐司	第31回日本心臓リハビリテーション学術集会	7月19日（愛知）
当院におけるリハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算に対する取り組みと振り返り	山村 猛瑠	第53回四国理学療法士学会	11月30日（香川）

講演

講演名	講師	研修会名	開催日（県）
循環器疾患の復職支援に向けたMets応用～産業医に聞いて欲しい心臓リハの話～	前田 秀博	令和7年度 高知県産業医学研修会	6月23日（高知）
包括的外来心臓リハビリテーションを実施してQOLが向上した症例	亀岡 弓佳	第28ヨサコイ Meeting	7月28日（高知）
糖尿病とサルコペニア	横田 太郎	第14回糖尿病療養指導スキルアップセミナー	9月28日（高知）
高齢心不全患者へのアプローチ	橋田 芳恵	第30回心不全療養セミナー	12月4日（高知）

論文

タイトル	執筆者	誌名
当院ICUでの心臓リハビリテーションの実践	橋田 芳恵	日本心臓リハビリテーション学会誌 Vol131.No2 2025